

各位

2005年5月17日  
日産化学工業株式会社

中期経営計画「Vista2010—Stage I」(05年度～07年度)スタート  
——07年度目標 売上高 1,850 億円、営業利益 260 億円に設定——

当社グループは、世界に通用するブランド力を備えた真の「価値創造型企業」としての実力をより高めるため、2010年度までを展望した中期経営計画「Vista2010」を、本年4月よりスタートさせました。

この計画では、2010年のあるべき姿として、有機材料、無機材料、電子材料をコアの事業・技術領域と定め、この領域において、研究・開発・技術面で圧倒的優位にたつ材料メーカーとして拡大成長を継続し、また同時に、農医薬事業が着実に伸長し、基礎化学品など既存分野が安定的収益基盤を持つ事業ポートフォリオを構築してまいります。

これにいたる前半の三カ年(2005-2007)をStage Iと位置づけ、電子材料を中心に引き続き増益基調を維持するとともに、Stage II(2008-2010)以降の大きな飛躍につなげるため、コアの事業・技術領域に経営資源を従来以上に傾斜配分し、次世代の新規事業・材料の創出、開発を積極的に進めてまいります。このような方針のもと、Stage Iの最終年度である2007年度においては、売上高1,850億円、営業利益260億円、当期純利益170億円、ROE20%の達成を目標といたします。さらに2010年度には、計画期間中の一連の施策の成果により、売上高2,100億円以上の達成を目指してまいります。

Vista2010の業績目標

(億円)

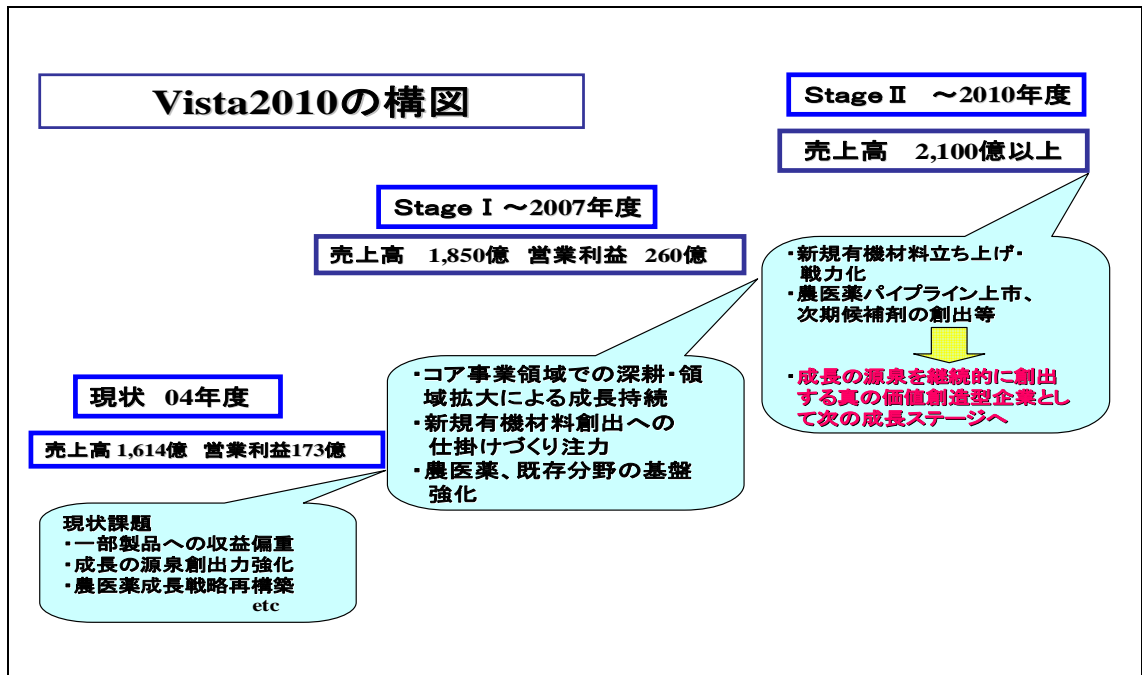
連結業績	04年度	05年度
	実績	予想
売上高	1,614	1,660
(うちコア事業領域)	(400)	(420)
営業利益	173	192
ROE	15.2%	-
ROA	6.6%	-

Stage I 最終

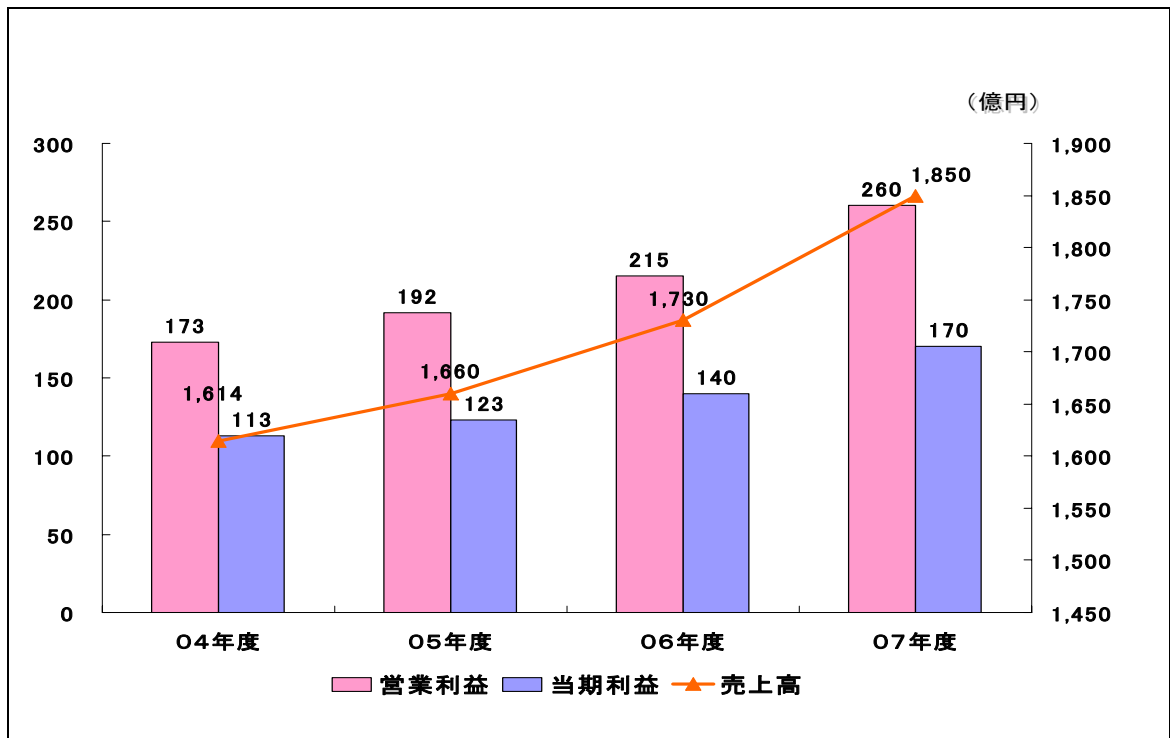
07年度
目標
1,850
(530)
260
20%
10%

Stage II 最終

10年度
目標
2,100以上
(720)
-
20%以上
10%以上

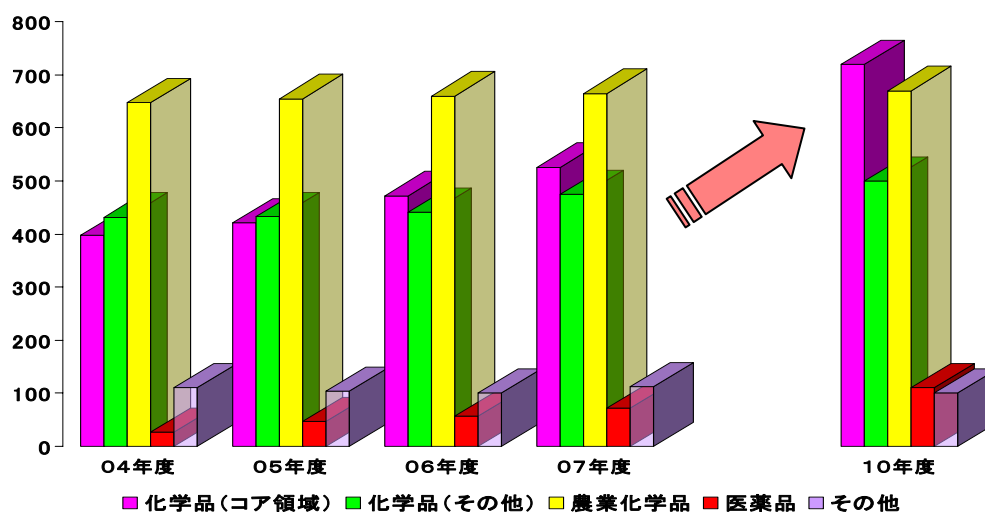


### Stage I 年次別目標展開



## 部門別売上高推移

(億円)



## Stage I 目標達成の基礎

### 1. 材料3分野の拡大

- ・電子材料(ポリイミド、ARC)、有機材料(テピック—粉体塗料、電子材料向け)、及び無機材料(スノーテックス—特に非シリカゾル系)等高機能材料の拡大

### 2. 基礎化学品の内外での堅調な需給継続

### 3. ラウンドアップ営業権償却終了(06年度)に伴う農業化学品の損益貢献

### 4. 高脂血症治療薬リバロの安定的拡大とコストダウン

### 5. 連結子会社の収益力向上

## Stage II 以降の拡大に向けた重点戦略

### ◎コア事業領域での現有製品の拡大と新規事業・材料の創出、開発を加速

- ・コア技術(高分子設計・微粒子制御・精密有機合成)への経営資源の傾斜配分
- ・外部研究機関、VBとの提携拡大

#### 1. 電材

- ・次世代製品対応に向けた技術力強化
- ・ディスプレイ、半導体両分野での深耕と拡大及び周辺、境界領域の新規材料開発加速

#### 2. 無機材料

- ・研磨剤に続く成長分野の用途開拓加速—無機導電材料、高屈折材料等

#### 3. 有機材料

- ・新規有機材料創出、開発体制の集約と拡充—研究員・研究開発費の傾斜配分

## 既存分野の基盤強化施策

### 1. 基礎化学品

- ・環境化学品分野を中心とする用途開発、周辺市場開拓促進
- ・徹底した合理化追求による競争力・収益力強化

### 2. 農薬

- ・自社新原体(殺菌剤・ダニ剤)及びラウンドアップ新規製剤のスムーズな開発遂行による、早期戦力化
- ・海外における独自の流通ルート構築による既存品収益力強化

### 3. 医薬品

- ・開発品・候補品の内外での着実なステージ進捗
  - ＜高脂血症治療薬 NK-104(リパロ)＞ 欧米開発  
05-06年 PⅢ入り → 08-09年頃 上市目標
  - ＜慢性動脈閉塞症治療薬 NT-702＞  
米国 06年 PⅢ入り → 08-09年頃 上市目標  
日本 06-07年 PⅢ入り → 10-11年頃 上市目標
  - ＜抗心房細動薬、血小板増多薬＞  
05-06年 前臨床入り 本格開発へ移行予定
- ・継続的パイプライン創出に向け、複数の製薬メーカーと共同研究開始

## 資本・財務政策

ROE20%、ROA10%達成のため機動的な財務施策遂行

- ・資産スリム化、借入金ミニマム化の推進
- ・FCFの有効活用——新規投資、M&Aへ積極的に資金配分  
——05年度配当金 14円(中間7円) 3円増配

当社グループは、以上の計画を着実に実施することで、真の価値創造型企業としてさらに実力を高め、持続的な成長を図ってまいります。

以上